

## 中国語の見方・日本語の見方

### —小説における作者の「視点」—

東京外国語大学 加藤晴子

#### 概 要

日本語の小説では、作者はしばしば登場人物に一体化し、登場人物になりきって小説の中の情景を見て語ります。作者が登場人物の「着ぐるみ」に入ったような語り方になります。

一方、中国語の小説には、作者が登場人物に一体化したような語り方は、それほど多くは現れません。情景全体を「チェス盤」のように見下ろして、人物のコマを動かすような語り方になります。今日は、このような中国語と日本語の小説における「視点」の違いについて、お話しします。

#### ■言語を比べる

比較言語学：複数の言語の系統関係を明らかにし、共通の祖先を探る。

対照言語学：複数の言語の異同を明らかにし、個性と共通性を探る。

▶ ものの特徴は、別のものと比較することによって明らかになる。

#### ■「視点」とは？

「車が走ってきた」と「車が走っていった」の違い。

「太郎が花子にやった」と「太郎が花子にくれた」の違い。

「太郎が花子を誘った」と「花子が太郎に誘われた」の違い。

「三日月がでていた」と「三日月がでているのを見た」の違い。

この違いをもたらすのが「視点＝どこから見るか・誰の立場に立つか」の違い。

#### ■資料

北京日本語学研究センター編 2003 『中日対訳コーパス』から

川端康成『雪国』【例文末尾の[ ]内は、コーパス内の段落番号、〈 〉内は加藤による直訳】

3種の翻訳＝叶谓渠 訳：記号(Y)，侍 桁 訳：記号(S)，高慧勤 訳：記号(G)

主人公：島村，ヒロイン：駒子

#### ■「くる」「いく」と“来”“去”

「車が走ってきた」と「車が走っていった」の違い。

「太郎が山道を歩いていた。突然、虎が飛びかかってきた。」の場合。

【日本語】「太郎が山道を歩いていた。突然、虎が飛びかかっていった。」は、かなり不自然。

【中国語】「太郎が山道を歩いていた。突然、虎が飛びかかっていった。」も、ありうる。

「虎は腹をすかしていた。茂みが動いたので、飛びかかっていった。」の場合は？

(1-j)島村はとっさに言って、裸のまま乱れ籠を抱えて隣の女湯の方へ行った。女は無論夫婦面について来た。[308]【島村のほうへ】

(1-c1)島村连忙说了一句。然后就那么光着膀子，抱起篮子走进了旁边的女澡堂。女子当然是装成夫妻的样子跟了上去。(Y)〈～。女はもちろん夫婦のふりをしてついて行った。〉

(1-c2)島村马上答了话。他赤裸着身子，抱着那散乱的筐子，走向隔壁的女浴室去。不需说，她摆出了夫妇的样子跟着来了。(S)〈～。もちろん女は夫婦のふりをしてついて来た。〉

【どちらでも可=人物をコマとして動きを説明】

(2-j)駒子が扉をあけて横倒れにはいって来た。しかしその時車はもう止まっているのだった。  
[1337]【島村のほうへ】

(2-c1)駒子打开车门，侧身倒了进去。但是，这时车子已经停住，(Y)〈～はいって行った。～〉

(2-c2)駒子打开了车门向车里倒卧下来。可是这时车子已经停住了。(S)〈～はいって来た。～〉

【どちらでも可=人物をコマとして動きを説明】

## ■「やりもらい」と“給”

「太郎が花子にやった」と「太郎が花子にくれた」の違い。

【日本語】主語や間接目的語を省略しても，理解可能。

【中国語】動詞がひとつ。主語と間接目的語を明示して違いを表す。

「問題の答えを，太郎が教えてくれた。」の場合。

【日本語】「くれた」＝恩恵（ありがたい気持ち）

▶ ありがたく思っているのは本人。本人になりきらなければ表現できない筈。

【中国語】「くれた」に相当する部分を表現しない。「窓を閉めて。」

▶ ありがたい気持ちは表現されない。

(3-j) 師匠の家の娘なら宴会を手伝いに行ったにしろ、踊を二つ三つ見せただけで帰るから、もしかしたら来てくれるかも知れないとのことだった。[96]【恩恵】

(3-c) 师傅家の姑娘，虽然去宴席上帮忙，顶多跳上二三个舞就会回来的，说不定她倒能来。〈～もしかしたら来られるかも知れないとのことだった。〉(G)【事実】

(4-j)島村は雪の季節が近づく火鉢によりかかっていると、宿の主人が特に出してくれた京出来の古い鉄瓶で、やわらかい松風の音がしていた。[1305]【恩恵】

(4-c)雪季将至，他靠近火盆，听见了客栈主人特地拿出来的京都出产的古老铁壶发出了柔和的水沸声。(Y)

〈雪の季節が近づいていた。島村は火鉢によりかかり、宿の主人が特に取り出した京都産の古い鉄瓶が柔らかな沸騰の音を発するのを聞いた。〉【事実】

## ■「れる・られる」と“被”

「太郎が花子を誘った」と「花子が太郎に誘われた」の違い。

「太郎はマスコミに追い回された。」の場合。

【日本語】主語の人任せな気持ち・迷惑な気持ちを表す。

▶ 人に任せよう・迷惑だと思っているのは本人。本人になりきらなければ表現できない筈。

【中国語】受身形は、人任せ・迷惑な気持ちを表現するためだけには使えない。

(5-j)私そんなこと頼まれるとは夢にも思って来ませんでしたわ。[107]【迷惑】

(5-c)我做梦也没想到你会托我干这种事！(Y)〈私はあなたが私にそんなことを頼むとは夢にも思っていなかった。〉【事実】

(6-j)この冬スキイ場でなじみになった男達が夕方山を越えて来たのに出会い、誘われるまま宿屋に寄ると、芸者を呼んで大騒ぎとなって、飲まされてしまったとのことだった。[204]【人任せ】

(6-c)据她说：今冬在滑雪场上，结识了一帮子男人，他们傍晚翻山越岭来到这里，彼此相遇，他们邀她上了客栈，还叫来艺妓，狂欢一场，被他们灌醉了。(Y)

〈彼女によると、この冬スキイ場で男達と知り合ったが、彼らが夕方山を越えて来て出会い、彼らは彼女を宿屋に招き、芸者を呼んで大いに騒ぎ、彼らに飲まされた。〉【事実】

(7-j)浜松の男に結婚してくれと追い廻されたが、どうしても男が好きになれないで、ずいぶん迷ったと言った。[449]【迷惑】

(7-c)她说，滨松那个人一直缠着她，叫跟他结婚，可驹子压根儿不喜欢他，始终拿不定主意。(G)

〈～、浜松の男がずっと彼女にまとわりつき、彼と結婚させようとしたが、～〉【事実】

## ■情景の観察

「三日月がでていた」と「三日月がでているのを見た」の違い。

【日本語】情景の中で「着ぐるみ」を着ているので、観察者は意識されない。

【中国語】情景全体を「チェス盤」のように見おろしているのので、観察者自身もコマとして見える。

(8-j)内湯から出て来ると、ロシア女の物売りが玄関に腰かけていた。[673]【情景のみ】

(8-c)从浴池里走出来，看见卖东西的俄国女人坐在大门口。(S)〈～、ロシア女の物売りが玄関に腰かけているのが見えた。〉【情景を見たという事実】

(9-j)来てみるといかにも、宿の部屋の軒端に吊るした装飾燈には、玉蜀黍色の大きい蛾が六七匹も吸いついていた。[667]【情景のみ】

(9-c)到了这里之后，果然发现旅馆房檐下吊着的灯笼上，钉着六七只玉米色的大飞蛾。(G)〈来てみると、果たして宿の部屋の軒端に吊るした装飾燈に、玉蜀黍色の大きい蛾が六七匹も吸いついているのをみつけた。〉【情景を見たという事実】

## ■まとめ

【日本語】情景の中にいる登場人物の「着ぐるみ」を着て一体化した語り方をする。

【中国語】情景全体を「チェス盤」のように見おろし、人物のコマを動かすような語り方をする。

❖ 以上は傾向の違いであり、日中で違いのない場合もある。翻訳の良し悪しもある。

❖ 以上に取り上げた個別の事情と翻訳全体から受ける印象との関係も検討したい。

## ■比べて初めて気づくこと

- ▶ 日本語だけ、中国語だけしか知らなければ、違いには気づけない。
- ▶ 「視点」をどこに設定するかは、世界の見方の違い。
- ▶ 新しい言語を学ぶことは、新しい世界の見方を知ること。

## ■参考【北京日本語学研究センター編 2003『中日対訳コーパス』の検索例】

行番	雪国 (原文)	雪国(1)(訳文)	雪国(2)(訳文)	雪国(3)(訳文)
1	書名 雪国	书名: 雪国 (1)	书名: 雪国 (2)	书名: 雪国 (3)
2	著者 川端康成	作者名: (日)川端康成	作者名: 川端康成	作者名: (日)川端康成
3	出版社:新潮 CD	译者名: 叶谓渠	译者名: 侍桁	译者名: 高慧勤
6	国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなった。信号所に汽車が止まった。	穿过县界长长的隧道,便是雪国。夜空下一片白茫茫。火车在信号所前停了下来。	穿出长长的国境隧道就是雪国了。天边的夜色明亮起来。火车停在信号房前面。	穿过县境上长长的隧道,便是雪国。夜空下,大地赫然一片莹白。火车在信号所前停了下来。

## 【日本語で読める参考文献】

池上嘉彦 2012「〈言語の構造〉から〈話者の認知スタンス〉へー〈主客合一〉的な事態把握と〈主客対立〉的な事態把握一」『國語と國文學』VOL.89-11 平成二十四年十一月特集号 pp.3-17, 東京大学国語国文学会, 明治書院

加藤晴子 2016「同じ世界の異なる見方」東京外国語大学言語文化学部編『言葉から社会を考える』白水社 pp.106-109

金谷武洋 2010『日本語は敬語があって主語がない 「地上の視点」の日本文化論』光文社新書

久野 暉 1985『談話の文法』大修館書店(第5版)

李奇楠 2016「中国語・日本語の構文から見る主観性」小野正樹・李奇楠編『言語の主観性 認知とポライトネスの接点』くろしお出版 pp.1-17